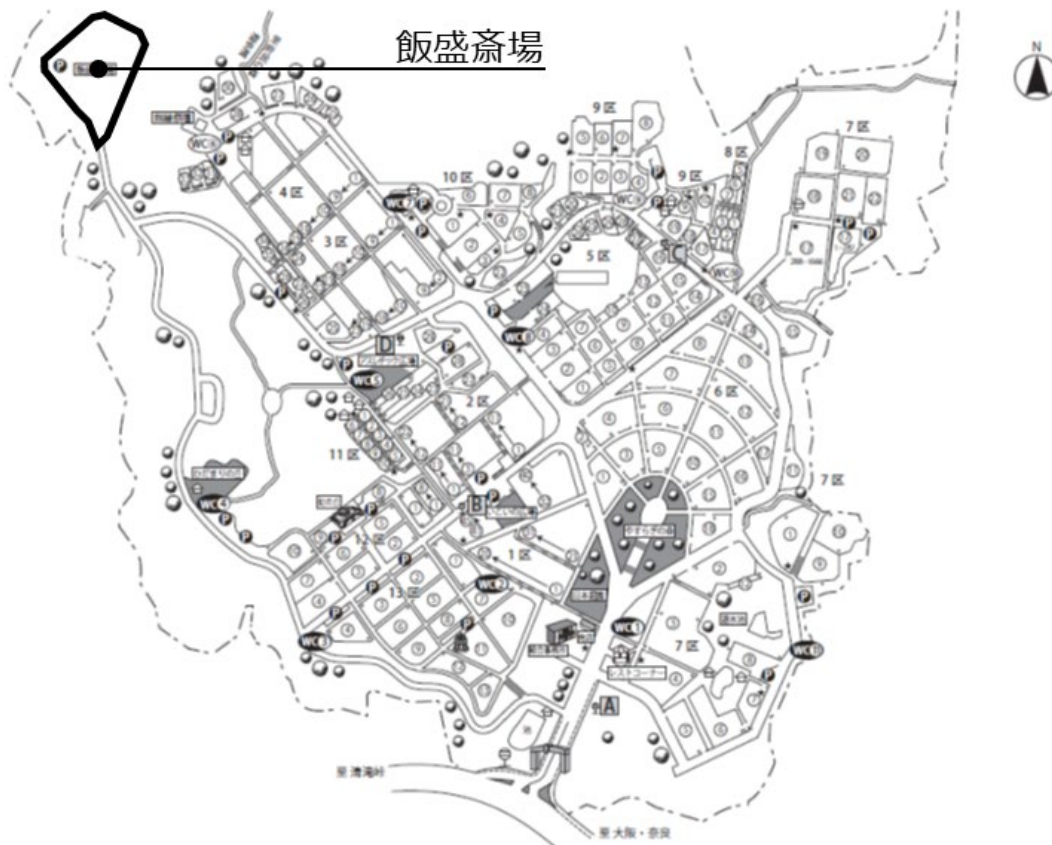


第1章 前提条件の整理

I 飯盛斎場の施設概要

本斎場は、四條畷市内・飯盛霊園の北側隣接地に位置しています。本斎場の施設は供用開始から29年が経過しており、建物及び火葬炉設備の老朽化が進んでいます。

<飯盛霊園と飯盛斎場の位置関係図>

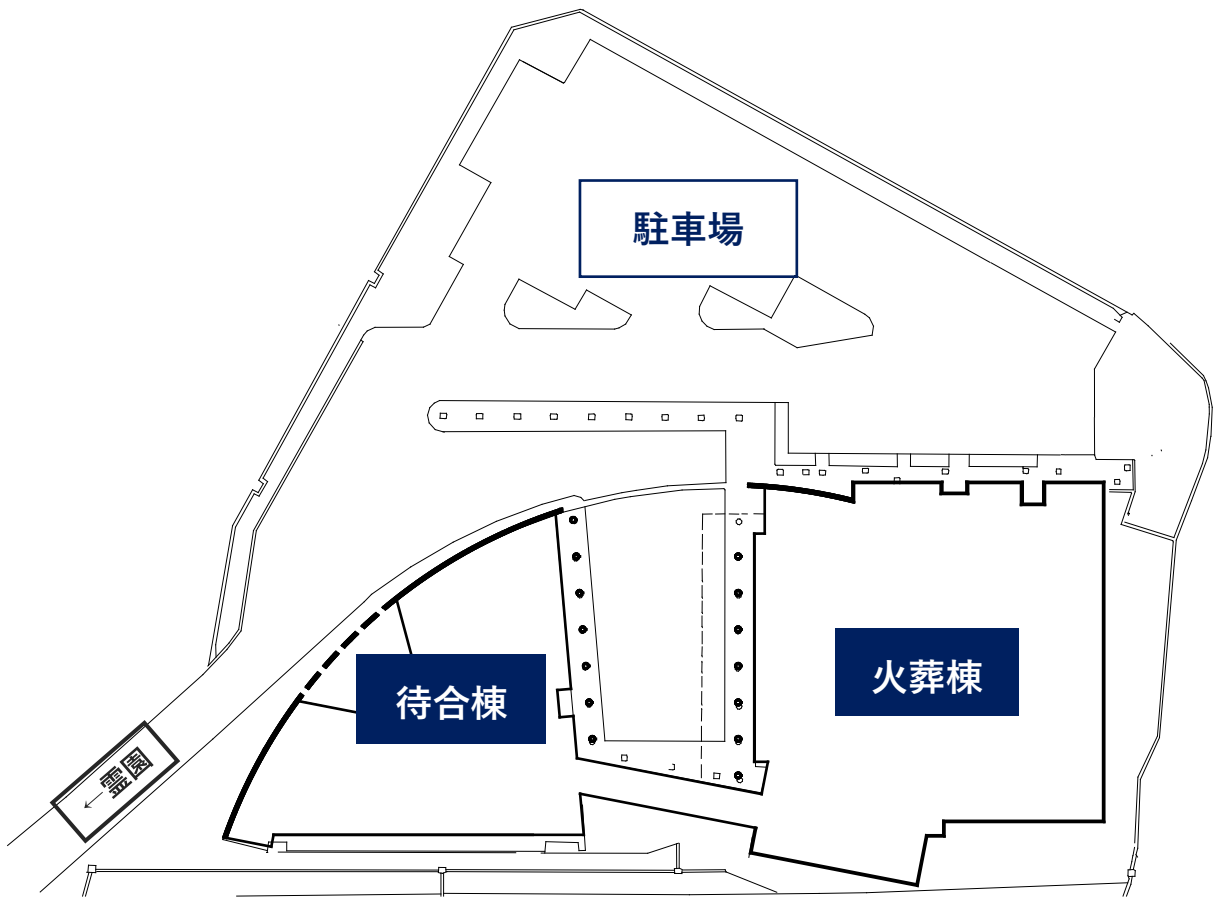


< 飯盛斎場の施設概要 >

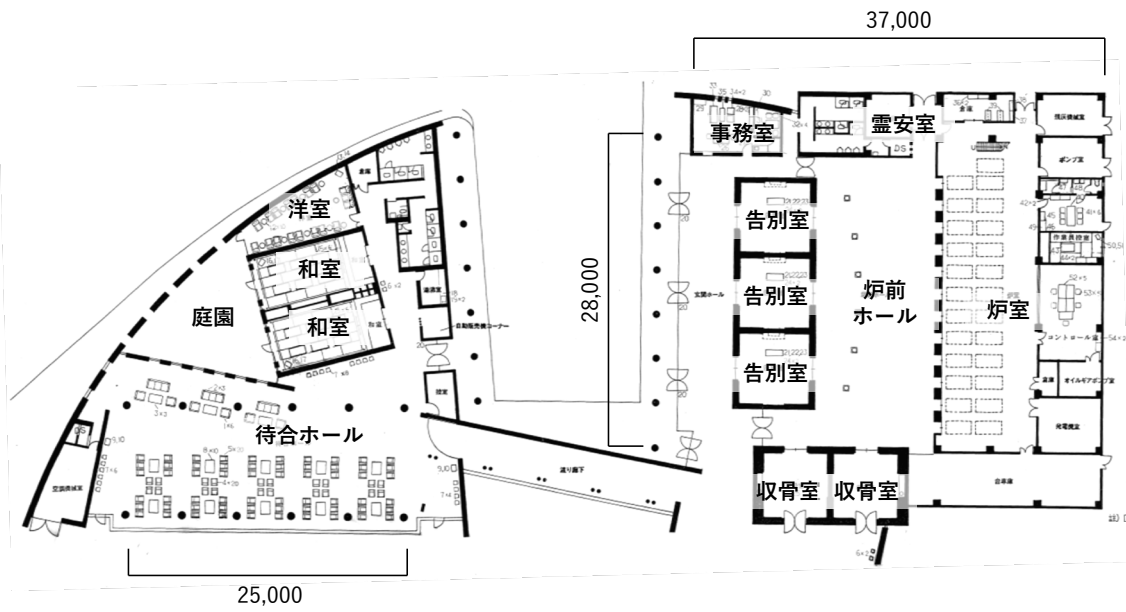
所在地	大阪府四條畷市大字下田原 2457 番地
敷地面積	25,705.36 m ²
建築面積	2528.63 m ²
延床面積	2,566.71 m ²
地域地区	市街化調整区域 都市計画施設（火葬場）
建蔽率・容積率	60%・200%
供用開始年月	平成 5 年 12 月
築年数	29 年
構造・規模	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
耐震性能	新耐震基準
業務内容	火葬業務、施設使用許可等業務、維持管理業務、運営業務、警備業務など
業務時間	09:00～17:30
休業日	1 月 1 日



<現況 配置図>

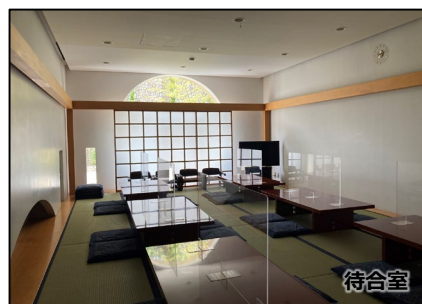


<現況 1階平面図>



< 飯盛斎場の施設構成 >

機能	諸室名	室数	床面積(m ²)	備考
火葬棟	火葬炉 (白灯油)	1 室	257.60	標準炉 10 基、補助炉 1 基、予備 2 基
	炉前ホール	1 室	308.00	
	告別室	3 室	47.90	
	収骨室	2 室	44.50	
	霊安室	1 室	16.80	保管台 2 台
	コントロール室	1 室	52.20	
	残灰機械室	1 室	23.20	
	作業員控室	1 室	43.50	
	台車庫	1 室	87.50	
	共用部・その他	-	-	廊下・トイレ等
	計		1,748.94	
待合棟	待合ホール	1 室	406.90	
	待合室	2 室	57.70	和室各 20 畳
	軽食コーナー	1 室	48.00	洋室
	キッズコーナー	1 箇所	-	
	授乳室	1 室	-	
	共用部・その他	-	-	廊下・トイレ等
	計		817.77	
駐車場	乗用車	47 台	-	
	バス	5 台	-	



II 現状の課題

本斎場の施設は供用開始から 29 年が経過しており、建物及び火葬炉設備の老朽化が進んでいます。現時点における本斎場の課題について、目視による調査や、現職員へのアンケート調査を行った結果を以下に整理します。

① 施設の老朽化

- ・ 火葬場は、室内温度の上昇が激しいことから、一般的な建物と比較して耐用年数が短くなることが予想されます。
- ・ 玄関ホール、収骨室や告別室等、天井、壁、床の亀裂が散見されます。特に入場口の床材は、台車の移動に耐えることができる材質への変更が望ましいです。
- ・ スタッフ控室、集じん室やポンプ室等、扉にひずみが生じ、開閉が重い・きちんと閉まらないものがあります。
- ・ 屋上の水はけが悪く、苔が生え、また落ち葉が溜まっています。煙突カバーや屋上へつながる室内階段が錆びているなどの問題があります。また、台車庫等、豪雨時に雨漏りが発生する箇所があります。

② 施設の狭あい化

- ・ 火葬炉数 10 基に対して、告別室が 3 室、収骨室が 2 室ありますが、建設当初の想定火葬件数で規模が設定されています。現在の火葬件数は建設当初の処理件数の 2 倍以上の件数をこなしていることから、規模・室数が不足しています。
- ・ 建設当初と業務環境が変化し、倉庫やスタッフの控室、炉裏の作業場（特に炉間）の広さが不足しています。
- ・ 現斎場には残骨灰の置き場が不足しており、現在は空きスペースに置いている状況です。

③ 火葬炉設備の老朽化

- ・ 平成 5 年の供用開始から、消耗部品の交換などのメンテナンスを行いながら運転を続けていましたが、火葬炉本体は老朽化が進んでいます。
- ・ 一般的な火葬炉の耐用年数が 15～20 年であり、現段階で耐用年数を超えていることから、早急に更新を行う必要があります。
- ・ 火葬炉設備は供用開始以降、炉の入れ替えなど大幅な更新を行っていないため、火葬炉の老朽化により環境に影響を与えている恐れがあります。
- ・ 火葬炉設備の悪臭や騒音・振動は、公害防止関係法令等に定める基準を遵守し、ダイオキシンなどの排出ガスは「火葬場から排出されるダイオキシン類削減対策指針」や「火葬炉設備の建設・維持管理マニュアル(日本環境斎苑協会)」の数値を参考に目標値を定めなければいけませんが、より高い環境性能の火葬炉設備は、現斎場ではスペースが不足しているため設置することができません。
- ・ 耐火煉瓦の更新などのメンテナンスの手間や費用がかからないなど、長期的な視点でランニングコストの削減についても検討が必要です。

④ 災害時対応への懸念

- ・ 本斎場は新耐震基準で建設されており、平成 7 年の阪神淡路大震災や平成 30 年の大阪北部地震の際にも運転を続けることができました。ただし現状として、什器や設備の転倒防止対策が徹底されていない等の問題があります。
- ・ 今後、高い確率で発生が予測される南海トラフ地震や生駒断層地震に備えて、水道・電気・ガスなどのライフラインが途絶した場合においても、火葬炉設備の運転が持続できる対策を事前に検討する必要があります。

⑤ 利便性における課題

<利用者の利便性に関して>

- ・ 待合スペースをパーティションで仕切って授乳室としていますが、新斎場では、よりプライバシーが確保された空間が必要です。
- ・ 老朽化したカーペットの沈み込みによって待合スペースに段差が生じています。他にも、床の材質や和室の待合室等、高齢者や車いすの方々の利用に不便な箇所があります。
- ・ 利用者エントランスはガラス扉となっているため、強風の影響で扉があおられて破損してしまうこともあり、利用者の安全が確保しづらい状況となっています。
- ・ トイレや自販機の案内が分かりづらく、ユニバーサルデザインに配慮したサイン計画が必要です。

<業務上の利便性に関して>

- ・ 火葬炉数 10 基に対して、炉前ホールが 1 室のみのため、火葬スケジュールの立てにくい平面計画となっています。
- ・ 作業場に関して、照明や空調設備の計画も含めて作業環境の改善を図る必要があります。
- ・ 女性スタッフ用の更衣室が整備されていません。

III 火葬利用の実績

(1) 火葬件数の推移

本斎場では、平成に入った頃から、少子高齢化の影響や周辺地域の人口増加などに伴い、火葬件数が増加しています。平成 20 年度には枚方市の斎場が更新された影響で一時的に火葬件数が減少しましたが、以降再び増加傾向にあります。

本斎場が供用開始された平成 5 年度には 2,756 件であった火葬件数が、令和 3 年度には 6,283 件と、2 倍以上に増加しています。

<火葬件数の推移グラフ>



(組合統計資料より)

<火葬件数の推移 (直近5年間)>

単位：件

年度	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	令和 2 年	令和 3 年
守口市	1,203	1,262	1,270	1,378	1,500
門真市	1,162	1,190	1,210	1,321	1,437
大東市	963	1,017	1,010	1,095	1,133
四條畷市	466	467	481	522	550
関係市外	1,712	1,679	1,659	1,571	1,663
計	5,506	5,615	5,630	5,887	6,283

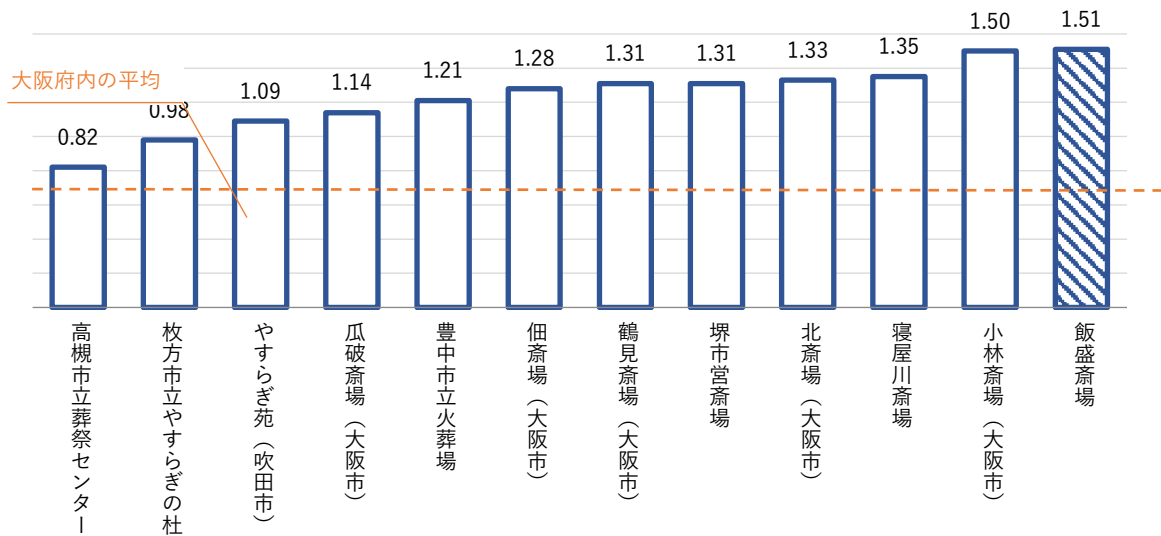
(組合統計資料より)

(2) 火葬炉 1 基 1 日あたりの火葬件数

本斎場では、火葬件数の増加に伴い、火葬炉の稼働率も年々増加しています。平成 29 年度の調査によると、火葬炉 1 基 1 日あたりの火葬件数は、大阪府内の火葬場における平均値は 0.78 件となっていますが、本斎場では 1.51 件と、平均値の約 2 倍の稼働率となっています。

平成 5 年の供用開始以降、消耗品の交換などのメンテナンスは行っていますが、火葬炉に大きな負担をかけながら運転を続けているといえます。

<火葬炉1基1日あたりの火葬件数（大阪府内上位12斎場・平成29年度）>



（大阪府調査より）

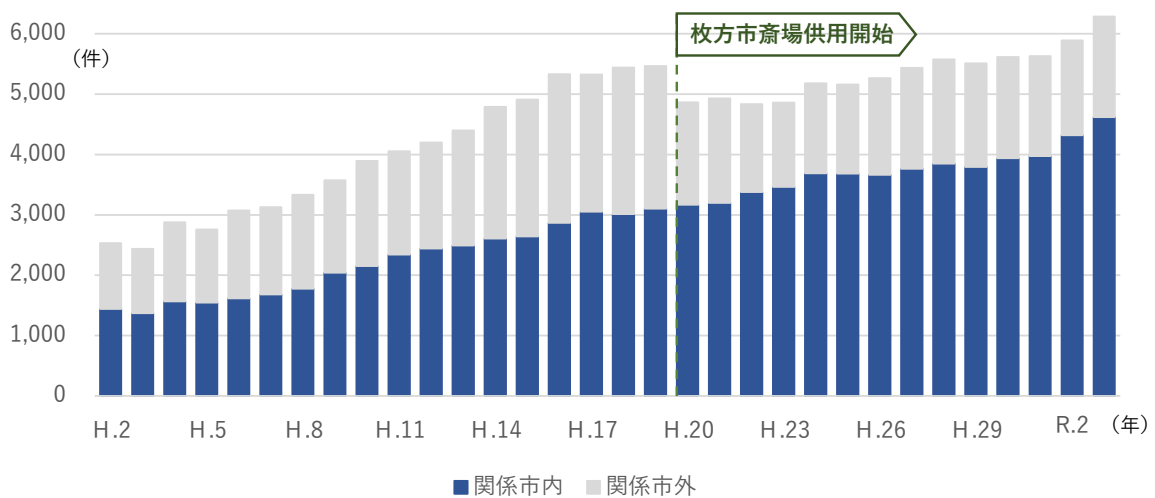
（3）関係市外からの火葬受入れ状況

本斎場では、令和3年度において、関係市外の火葬件数の割合が約3割と、大阪府内でも非常に高い割合となっています。

本斎場近隣の市町村を見ると、交野市や京都府南部の市町村のように火葬場を持たない市町村や、奈良市のように市民の数に対して稼働している火葬炉の数が少ない市、木津川市や精華町など人口増加割合が高い市町村が多く、これらが要因となっていると思われます。平成20年度に枚方市斎場が新築更新されたときは、一旦、関係市外の火葬件数は減少しましたが、その後、徐々に増加してきました。

ただし、令和4年度には奈良市の斎場が更新されたため、奈良市及び奈良市周辺市からの受け入れ火葬件数は減少しております。

<火葬件数の推移（関係市内・関係市外別）>



（組合統計資料より）